

棚田通信

NO1 2006.12

恵那市坂折棚田保存会

なごみの里だより

棚田の景観を伝えよう

平成18年7月、恵那市坂折棚田保存会が発足しました。当保存会の最大の目的は、約400年の歴史を持つ文化的景観の棚田を守り、後世に伝えることです。そのためには、中野方町の皆さんをはじめ、多くの人達がお互いに協力し合うことが必要です。すなわち相互扶助の精神がなければなりません。

そのためには、先ず保存会会員の皆様が坂折の美しい棚田の良さを都市住民の方々に知ってもらうことから保存活動を始めることだと考えます。

坂折棚田の良さとは何か、種々の見方がありますが、棚田広場に立ったとき、心がなごむことがあります。坂折棚田を訪れる殆んどの人達は、すばらしい景色だ、なにか心が洗われるようだ、と感じます。一体何がそうさせるのでしょうか。それは、長年に渡って祖先が石を積み上げ、田を造り、耕してきたからです。自然を大切にし、自然に感謝し生活してきたことが私達に伝わるからだと考えます。ここに住んでいる私達も、空気はきれいだし、環境もよい、のどかな風景、静かな、さわやかな風、自然を肌で感じて生活できるという誠に恵まれているわけです。

この良さを保存することは、きれいごとだけでは済ません。会員の皆様が身近な人（友人、知人、親戚や仲間の皆さん）に常に良さを発信し続けることが大切な活動だと考えています。具体的には、中野方町で生産される農産物やその加工品を多くの方に提供するよう努めることによって坂折棚田の美しい景観が伝わるものと思います。そのためにもここで生産される特産物の開発も保存会として努力していくかなければなりません。

どうか皆様方よりアイデアを出していただき、一緒に保存会活動を続けていきたいと思いますのでご理解、ご協力を願います。



会長 田口 譲

恵那市坂折棚田保存会のあゆみ

平成 18 年 7 月～12 月まで

7 月 18 日 恵那市棚田保存会設立総会

8 月 3 日 棚田の酒「くろくわ」新聞発表

8 月 6 日 棚田学会参加（10 名）東京三越本店



総会風景(早稲田大学中島先生の講演)



棚田オーナーによる稲刈り(NHKの取材もきていました)

9 月 10 日 ふるさと農村魅力再発見バスツアー
県主催、東濃地域より 40 名参加

9 月 13 日 棚田保存会全員会議

9 月 23 日 棚田オーナーの稲刈り 7 組参加
棚田コンサート「南修治」
棚田広場にて参加者約 100 名

10 月 6～7 日 全国棚田サミット（宮崎県日南市坂元棚田）参加者 9 名

10 月 22 日 棚田オーナー 秋の収穫祭

10 月 24 日 視察研修 学園花の村「小さな農業」（掛川市）参加者 30 名

10 月 26 日～29 日 本柘植家住宅の掃除

11 月 1 日 アストラゼネカ社（30 名）地域貢献活動

11 月 1 日 環境整備作業 20 名参加

11 月 11 日 東京棚田フェスティバルに参加

11 月 25 日～26 日

石積み塾、山里文化研究所 13 名、地元 20 名参加

今後の計画

ボランティア育成研修

シンポジウム（棚田保全の意義を考える）



アストラゼネカ社員による棚田奉仕作業風景

本柘植(酒屋)住宅改修始まる

去る 9 月に本柘植家の方達が靈仙寺で法要をされた折に住宅及び宅地をお借りできないかとお願いしたところ、快く承諾頂きました。しかし長年住んでいなかったことから相当傷んでいるため改修工事が必要です。とりあえず石積み塾の行われた日までに畳の入れ替えを三間（8 畳二間と 6 畠一間）行いました。

裏の縁側が腐っており早急に改修が必要です。現在坂折の柘植美智人さんに改修の依頼をしております。改修にあたっては、会員の皆様のボランティアをお願いしますのでご協力よろしくお願いします。

なお、土地、建物については使用貸借契約を柘植家と交わすよう進めています。この建物が棚田保存活動の拠点となるようになるべく早く進めていきたいと思っています。利用規定も順次決めていきます。

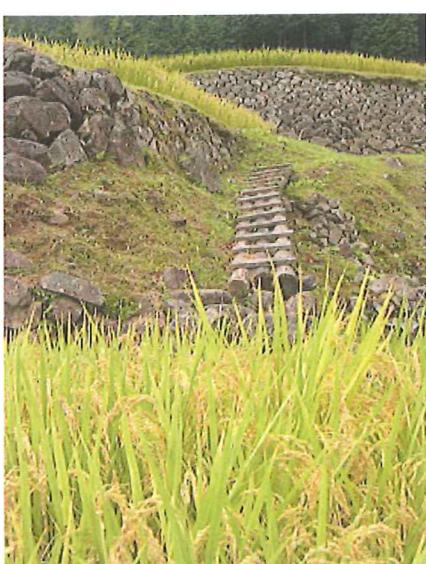
石積み塾の開催

去る 11 月 25 日（土）～26 日（日）、坂折棚田で石積み塾を行いました。これは、山里文化研究所の清藤さんの提案を受けて当保存会との合同で実行しました。1 日目は本柘植家（通称酒屋）で開会のあいさつの後、中野方町の柘植功さんを講師に迎え、石積みの歴史と石積みの基礎の話を聞き、午後から実習に入りました。実技指導は、柘植功さん、鷺見達夫さん、井戸文夫さんが 3ヶ所に分かれて行いました。実習終了後は本柘植邸にて交流会です。当保存会員も出席し楽しく過ごしました。そして夜は柘植家で寝袋持参で泊まりました。2 日目も引き続いて実習です。そして石積みを完成させ午後 4 時に解散しました。なお、参加者は約 33 人、遠くは栃木県から参加された方もありました。参加者のアンケートによると「またやりたい」という答えが大半でした。保存会としても今後も続けていきますので、ご協力をお願いします。



「坂折棚田」所感（棚田広場の棚田落書きノートより抜粋）

- ・ いつも来ても棚田と向こうの山々が広々として気持ちが洗われる気がします。特に秋の黄金色に実った棚田は素晴らしいです。残すべき日本の名景ですね。
- ・ 農業をしている方々、労力は大変だと思いますが、日本の景観の維持に頑張って下さい。ささやかな協力に賛同します。40数年ぶりに故郷に帰って。
- ・ 毎年、春と秋に来ています。それから何かあった時、来ると落ち着きます。刈り入れまでに来られなかつたのが残念。棚田米を売って欲しいですね。平日は無理かな。
 - ・ 石積みの技術がどこよりも優れている。曲線が女性的でやさしい。所々に男性が支えてくれる感じ。
 - ・ 棚田はもちろんきれいだが、周りの民家もきちんと整理されていて、景観を一層ひきたてています。ありがとうございました、いいものを見させてもらいました。
 - ・ 恵南と恵那市が合併をした恵那市を知ろうと中野方面へきました。きれいな景色で自分たちが住む町にこんな所があるんだと驚きました。
 - ・ 朝から素晴らしい景色を見せてもらい、毎日あわただしく夜まで続く時間が嘘のように感じられるほど、穏やかな気持ちになります。



里付近最好風景

東京棚田フェスティバルに参加

11月11日（土）、東京都飯田橋の大塚商会本社ビルで、NPO法人棚田ネットワーク主催による棚田フェスティバルが開かれました。これは全国の棚田の仲間との交流や東京の若い人への棚田を知ってもらう催しで、保存会では五平餅や芋もちを焼き参加者に提供しました。その他漬物、コンニャク、棚田米、「くろくわ」の販売をおこない恵那の坂折棚田を宣伝してきました。



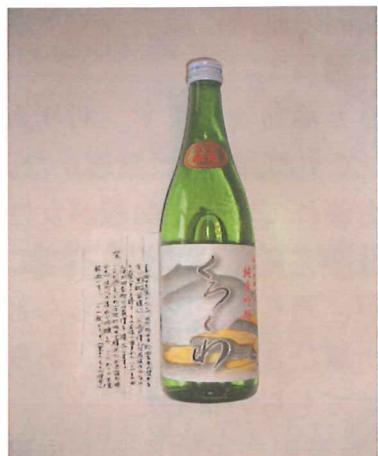
“棚田を知りたい、棚田を味わいたい、

棚田を描きたい、そして棚田を守りたい”

今回、全国から集まった棚田百選の地域は14地区でした。

■山形県朝日町（笹まき） ■新潟県十日市市浦田（自家製漬物）・松代（あんば）・池谷（新米おにぎり） ■新潟県佐渡市（イカの一夜干し） ■千葉県鴨川市（祭り寿司） ■静岡県松崎町（黒米うどん） ■長野県千曲市（おやき） ■岐阜県恵那市（五平餅） ■福岡県うきは市（フルーツ） ■佐賀県唐津市（かぼすコンニャク） ■群馬県川場村（特産品）

棚田の酒「くろくわ」を贈り物に（求む、棚田ブランド応援隊）



今年の寒の内（1月～2月）に坂折で収穫した米「ミネアサヒ」と坂折川の水を使って醸造した純米酒です。

棚田を作り上げた石工集団にちなんで「くろくわ」と名づけました。このお酒を棚田ブランドとして広めるため、皆様方が応援隊となって、贈り物やお客様への振る舞い酒、宴会にご活用し宣伝をお願いします。

なお、会員の皆様には特別に会員証を提示いただければ価格1本当り100円引きにさせていただきます。但し小松屋さんに限ります。

販売所 中野方町 小松屋 TEL 0573-23-2201

あとがき

保存会が発足してはや5ヶ月。やっと会報ができました。これからも、保存会の活動を順次出していきます。また、会員の方々からの活動に関する意見、アイデアを募集しています。

もう年の瀬です。雪化粧の棚田が見られる日も遠くありません。皆様よいお年をお迎えください。

恵那市坂折棚田保存会 事務局（中野方振興事務所内） 23-2111